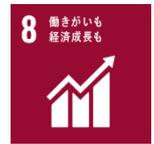


# キルギスにおける一村一品運動による女性の社会的地位の向上

中川 才良沙(国際関係学科・学生)



はじめに

2024年の夏季休暇にキルギス共和国日本人材開発センター(KRJIC)の主催する「カザフスタン・キルギス共和国合同 中央アジアシルクロード探求の旅 ～悠久の天山山脈のもとで学ぶ観光学と国際協力・国際ボランティア」に参加し、キルギス共和国とカザフスタン共和国を訪れた。キルギスでは、JICAの推進する一村一品というプロジェクトの施設(インククル湖)を訪れ、製品やその製造現場に接する機会もあった。ここでは、その一村一品運動を、主に女性の社会的地位の観点から考察する。



地図:キルギス共和国(出所:無印良品 暮らしの研究所)

現在のキルギス共和国での SDGs:ジェンダー平等

特に目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」について見ておく。現在のキルギスの SDGs 達成状況は中途段階である。女性と女兒は、無償の家事労働と家族介護に、男性よりもはるかに多くの時間を割いており、それが女性の有償労働への参加を妨げ、労働生産性、経済成長、貧困削減努力の達成に影響を与えている。2020年の調査で、平均で女性は1日の18.1%もの時間(4時間20分)を無償の家事労働に費やしているのに対し、男性は3.9%である(UN Women, 2023)。

Domestic work, 2020 (per day)



キルギスにおける家庭内無償労働時間(UN Women, 2023)

独立後キルギス共和国の背景

1991年に旧ソビエト社会主義共和国連邦が崩壊した後に成立したキルギスでは、民主化と市場経済化が進められたが、経

済発展は停滞してきた。多くの人が出稼ぎに行ったため、村のコミュニティは崩壊し地方は貧困化が進んだ。こういった状況下で、JICAは2007年にインククリ湖周辺で一村一品運動を開始した。現在では地方の女性に有給の労働の機会を創出するべく、首都ビシュケクにOVOPセンター(写真1)、インククリ湖畔のカラコルにOVOP工場が設けられている(写真2)。



写真1(左):OVOPセンター(筆者撮影)



写真2(右):OVOP工場(筆者撮影)

一村一品(OVOP)プロジェクトとその商品

一村一品とは、元々は、日本の大分県での地域活性化プロジェクトとして行われたのが始まりで、地域の特産物をブランド化して地域経済を活性化する取り組みがその特徴である。実際にキルギスでは、羊毛、ハーブ、野生のベリー類など地域固有の魅力的な資源を利用した商品作りがなされている。

カラコルのOVOP工場を訪問した際に、製品企画上の様々な工夫も聞くことができた。例えばハニーの梱包には、国によって輸出できないということがないように、HACCP、ISOといった国際的基準に基づいたパッケージが企画されている(写真3)。



写真3:OVOP工場内のハニー梱包の様子(筆者撮影)

また、筆者は無印良品と協力体制にあるフェルト事業に、特に注目した。写真の人形やポーチなどフェルト製品は羊毛に特殊な針(ニードル)を指すことで成形されるのだが、そのニードルが折れた際の破片が羊毛の中に紛れることのないように、金属を感知する機械に完成品を通して確認が行われていた。そしてフェルト製品は大きさが一定になるように、大きさを図る専用の定規が使われていた。手作りである以上各人のスキルにもよるのだが、人形一体を作るのに、二日か三日くらいを要するようだ(写真4)。



写真4:OVOP センター(写真1)のフェルト製品(筆者撮影)

#### OVOP プロジェクトによる女性の社会経済的な変化

地方の女性に働く機会を与えた OVOP のフェルト事業が具体的にどのような成果を生んだのかについて、いくつかの観点から考察する(Shimoda, 2022)。

分かりやすい変化は、地域住民の経済力向上と労働者の地域外への流出の阻止を導いたことだ。OVOP 事業による雇用創出のおかげで、人々が元々の居住地域やその周辺に留まるようになり、女性も有給の仕事に就くことが可能になった。

また技術・文化的な向上も見られた。無印良品との協働により、労働者が新しいフェルトの技術や知識を得ることができた。具体的には、キルギスで主にフェルト加工において使用されているウェット・テクニック(石鹼水を使用して成形する)に加えて、ドライ・テクニック(ニードルを使用して成形する)を身につけることができた。

そして、仕事に対する倫理観の向上があった。筆者自身、キルギスで英語教師をされている青年海外協力隊の方から実際に話を聞いたが、従事者には時間にルーズでタイムパフォーマンスを気にしない傾向も見受けられたようだ。しかしプロジェクトでは国際規格に合う商品を作ることを求められたり、期限内での製造・出荷を守る必要が生じたりしたため、結果的に、女性たちのなかで、仕事での倫理観や規律の向上が生じた。

最後に、タイトルにも示した女性の社会的地位の向上だ。プロジェクトの参加者は村の内外でフェルト事業に参加することで、社会的ネットワークを広げることができた。キルギスの、特に

農村部では、女性は家において家族の世話をすることが期待されてきたため生活圏が狭いのだが、フェルト事業は女性が家の外で交流できる場を作り出すことに成功した。また、これは、フェルト生産者の家族やコミュニティ内での女性の社会経済的な力を、ある程度強化することとなった。経済的成功を納める女性たちへの尊敬の念が生まれ、その子供たちは自分の母親がフェルト事業の一員であることに誇りを感じていると答えた。

また、自分の好きな働き方を選べるフェルト事業の柔軟なシステムが、ワークライフバランスを保って事業に参加することも可能にし、女性のエンパワメントに貢献したといえる。実際、フェルト作業では、規格などを伝えたくて、家で作ってきてもらうという流れが取られていたようだ。

#### 最後に

現地の女性たちが働きやすいシステムの構築・整備と国際的に通じる製品の企画・維持が、この一村一品プロジェクトが長期にわたって成功していることの原因だと考えられる。

私自身、大学の人類学の授業で、ステークホルダーの意見が汲まれている開発事業が頓挫することを学んだ後に、この一村一品事業の成功事例を実際に見ることが出来たこともあり、今回の訪問と見聞は、とても有意義な経験になった。他の国際協力や地域開発においても、継続性が担保されるようなプロジェクトが計画されることが必要になる。

#### 主要な参照・参考文献

Tanaka, N. (2024, February). 高付加価値の製品を生み出すキルギスの一村一品運動. 政府広報オンライン.

[https://www.govonline.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/202402/202402\\_07.jp.html](https://www.govonline.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/202402/202402_07.jp.html). (参照 2024-9-23)

独立行政法人 国際協力機構. (2023, January 24). キルギスの一村一品運動はなぜ成功したのか? ゼロからの取り組みが国家プロジェクトに進化した理由.

[https://www.jica.go.jp/information/topics/2022/20230124\\_01.html](https://www.jica.go.jp/information/topics/2022/20230124_01.html). (参照 2024-9-23)

無印良品くらしの研究所. MUJI×JICA プロジェクト キルギス編. <https://www.muji.net/lab/found/kyrgyz/>. (参照 2024-9-23)

無印良品くらしの研究所. #01 キルギスの自然や歴史. <https://www.muji.net/lab/found/kyrgyz/01.html>. (参照 2024-9-23)

Shimoda, Yukimi. 2022, *Unpacking the Influence of Business Approaches to Development on the Expansion of Women's Choices and Empowerment: A Case Study of a Handicraft Business in the Kyrgyz Republic*. JICA Ogata Research Institute Working Paper Series 231.

UN Women 2023, *Sustainable Development Goals and Gender in Kyrgyzstan*.